

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	沼津工業高等専門学校
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ヌマヅコウギョウコウトウセンモンガクコウ
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中部地方(愛知県を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立高等専門学校
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	学外実習
	学部・研究科等名	本科全学科(機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質工学科)
	担当教職員名・役職	各学科4年学級担任
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	130	
受入企業等数	91	
受入企業等名	(株)小糸製作所,花王(株),ユニ・チャームプロダクツ(株),旭化成(株),キヤノン(株),テルモ(株),サントリーホールディングス(株),ANAラインメンテナンステクノクス(株),出光興産(株),株)ヤクルト本社,(株)明治,クノール食品(株),株)JALエンジニアリング,森永乳業(株),静岡ガス(株),富士フィルムビジネスエキスパート(株),東日本旅客鉄道(株),ソニーエンジニアリング(株),キヤノンマーケティングジャパン(株),ヤマハモーターエンジニアリング(株),中部電力(株),小松製作所,東レ(株),株)リコー,(株)資生堂,サッポロビール(株),株)ニコン,他	
インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	全ての受入先で実際の業務の就業体験を行っている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	本科4年生5年生
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位または2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	主に本科4年生を対象に、夏期休業期間に企業等において実習を通じ工業技術を体得することを目的に30時間を1単位、60時間を2単位として選択科目として実施している。なお5年生も履修が可能である。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	全学科合同で事前研修会を行い、守秘義務・マナーや積極性の重要性を教育している。また、担任の指導により企業研究や事前レポートの作成および履歴書の作成を行っている。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている 4.その他
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	アンケートを実施し、振り返りを行っている。

	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.«3.その他»で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ中に教員が企業を訪問し、実習担当者および学生との面談を実施している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全学科合同で事前研修会を行い、守秘義務・マナーや積極性の重要性を教育している。また、担任の指導により企業研究や事前レポートの作成および履歴書の作成を行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	学内で学科毎にインターンシップ報告会を実施し、教員が評価をしている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	教員が受入先と調整のうえ訪問、情報交換を行っている。評価資料として受入先から実習証明書の記入をいただいている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.«4.その他»で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事後、学生は実施報告書の提出、アンケートを実施している。受入先に学外実習証明書で評価をいただき評価を行う。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.«4.その他»の実施期間の内容(記述欄)	1単位の取得に必要な条件を「30時間以上」とした。就業時間は「どの企業も同じ」とは限らないので、実施時間をより所とした。
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	H26年度より日数を基準とした単位から実働時間を基準とした単位へ規程を変更。受入先のプログラム日数は、5日間・10日間のため、連続した5日以上期間を確保しているといえる。また、実働時間の30時間に事前・事後学習の時間は含まれていない。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとつての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.«7.その他»で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習後、受入先記入の学外実習証明書と学内の実施報告書を合わせて評価している。また、受入先へアンケートを実施している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=22">https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=22</a>
問い合わせ先	大学等名	沼津工業高等専門学校
	担当部署名	学生課教務・入試係
	担当者役職名	係長
	担当者氏名	影山訓子
	電話番号	055-926-5732
	メールアドレス	kyoumu@numazu-ct.ac.jp